

ごあいさつ

日本剣道協会を始めとする埼玉県、そして近隣各県剣道協会のご協力を得て第47回少年少女、並びに第44回高校生の全国剣道優勝大会開催の運びとなり、令和8年度もいよいよ全国大会シーズンの幕開けとなりました。埼玉県立武道館、そして大会の準備、運営にご尽力頂いている皆様にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

剣道は稽古の場を通じて心とからだ、個性とフォーム、そして社会性へのバランスを意識させることで子供たちの成長への一助を担うと考えます。リスクを省みずに保護者が与える以上のものを社会や自然から吸収して欲しいと願う反面、安心と安全がこれまでになく取り沙汰される現代コミュニティでは、人間関係における加害者と被害者は常に背中合わせであり、瞬時の判断で潜在的にある「ヒト」のどの人格が現れても不思議ではありません。本当に求めるものは失敗と納得を繰り返し体得してでしか手に入りませんが、そうして得たものは決して他に奪われることはありません。足りないものを補おうとする気持ちがあつてこそ学ぼうという姿勢にも繋るのですが、欠けている箇所、足りない部分は意識づけと修練によって補えると捉える為、「被害者」という意識が自然と薄れて行きます。換金できる物の価値と管理の大切さを早くから学ばせながらも、「それには代え難いものも実はある」と、目に見え難い部分の大切なものが次第に分かるよう体験させてあげられたら良いのではないかと思います。

今日は「速くて簡単、しかも失敗しても大丈夫だからストレスフリー」と語りかけてくるAI先生の英会話授業画面から1日が始まりました。彼らの最大の強みは清濁合わせ呑む情報量、容量の大きさと、必ず笑顔で発話できる性格の良さ、そして発信した内容に責任を取らなくてもよい気楽さです。探し出す楽しみや辿り着く達成感が無くとも人は呼吸をし、数値的に必要な栄養を過不足なく摂取、排泄することで端末を相手に人との関わり合いから生まれるストレスを軽減するという幸せの形を手に入れました。しかし、それでも、己の不足を知り、そこから自己分析、研鑽し、方法に結びつける力はAIに委ねず自分で手がける習慣を身につけたいものです。ツールとして利用していたはずが知らず知らずのうちに思考を誘導され「人間」として後に失うものが大きいと考えられるからです。

大きな大会を開催する意味や価値、国際交流そのものへの感覚に多少の違いがあるものの、道着を付け学び合う剣士の姿には共通する一体感があります。この夏、米国やデンマークでの国際交流イベントが予定されていますが、来年の夏には北欧スウェーデンでの世界大会と国際親善大会を控え、今年度の各種国内全国大会には世界へと繋がる競技大会としての位置付けもあります。剣道というコミュニケーションツールと共にみなで世界を目指したいものです。本日、次の一年に向けたスタートとなる全国大会の場で練習の成果を十分に発揮されますようお祈りし、ご挨拶と致します。

令和8年7月

日本武藝剣道三代宗家
祝 嶺 正 献